

## &lt; 可児市の下水道 &gt;

当市では、急激な都市化への進展と生活様式の変化により、生活雑排水が著しく増加し、周辺環境に悪影響を及ぼして来ました。公共水域の保全や周辺環境の保全をするため、当市では、下水道の整備を昭和 62 年度より着手しました。

下水道には、合流式と分流式があります。前者は、雨水と汚水を同じ管で排除し、処理する方法で、後者は、雨水と汚水を別の管で排除する方法です。当市は、後者の分流式を採用しております。また、下水道に接続可能な汚水は、下記のとおりです。

1. 台所
2. トイレ
3. 風呂
4. 洗面所
5. 洗濯機

これらの汚水が、道路に埋設されている管を利用し、処理場へと運ばれ、適正な処理を行うことで汚水が浄化され、河川へと放流されます。また、当市における下水道事業は、表 - 1 のとおりです。

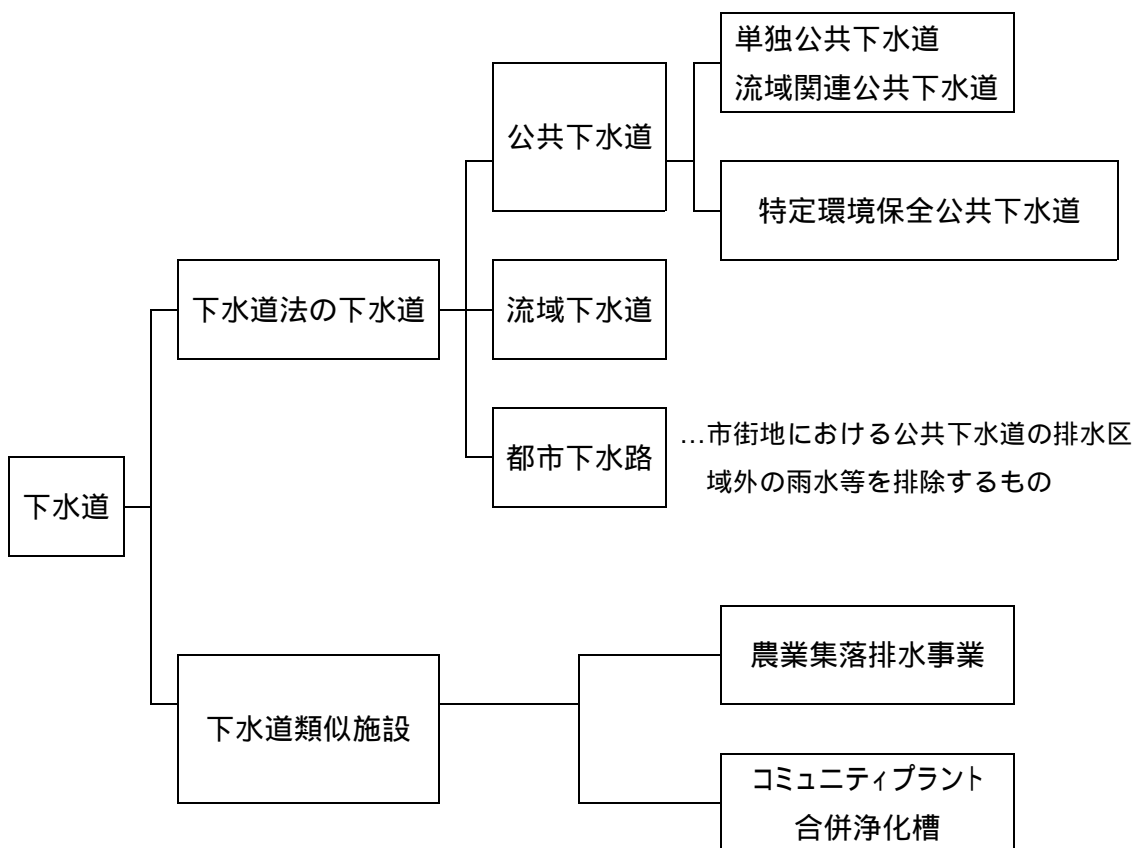
表 - 1 可児市の下水道事業

名 称	地 区 名	供用開始
木曽川右岸流域関連公共下水道事業(公共下水道)	下記 5 地区以外	H6.10
特定環境保全公共下水道事業	広見東	H10.3
	大森	H12.3
	久々利	H1.3
農業集落排水事業	塩河	H6.4
	長洞	H9.4

ここで、特定環境保全公共下水道事業の広見東地区と大森地区は、流域下水道に接続しています。全体での水洗化率は、平成 25 年度末で約 91%です。

今後の展望としては、昨年度、長寿命化基本計画を策定し、この計画を元に、下水道施設の長寿命化を図る計画です。また、ゲリラ豪雨対策として、雨水排水においては、現在、土木課が順次、整備を進めておりますが、下水道施設の一部として、公共下水道特別会計の予算にて対応をしています。

図 - 1 下水道の仕組み

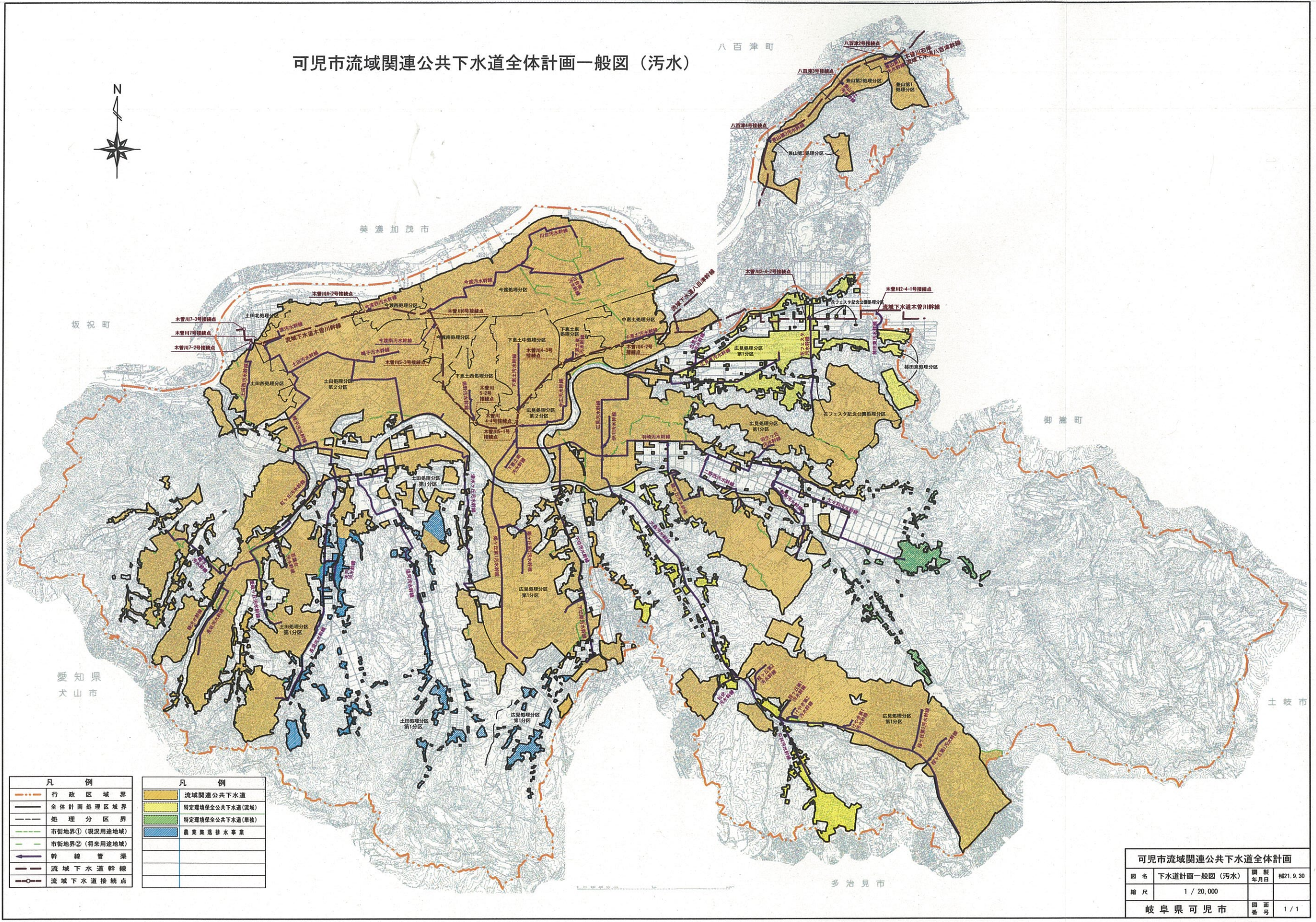


# 可児市全図

1:20000 地形図

平成十八年十二月作成

## 可児市流域関連公共下水道全体計画一般図（污水）



行政区域界	流域関連公共下水道
全体計画処理区域界	特定環境保全公共下水道(流域)
処理分区界	特定環境保全公共下水道(単棟)
市街地界①(現況用途地域)	農業集落排水事業
市街地界②(将来用途地域)	
幹線管渠	
流域下水道幹線	
流域下水道接続点	

可児市流域関連公共下水道全体計画			
図名	下水道計画一般図(污水)	調製年月日	補21.9.30
縮尺	1/20,000	図面番号	1/1
岐阜県可児市			

国際航業株式会社調製

可児市

下水道の状況(平成25年度末現在)

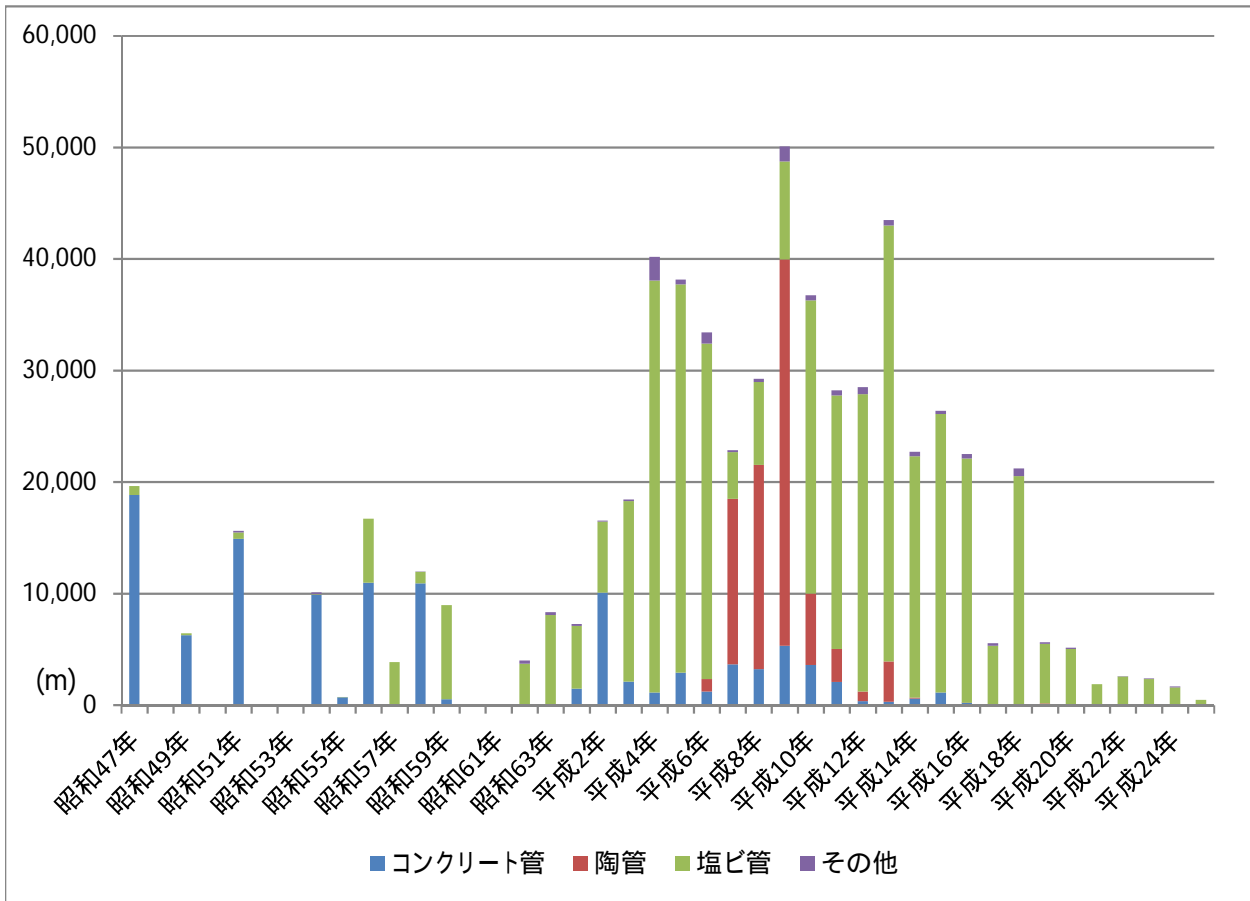
	木曽川右岸流域 関連公共下水道	特定環境保全 公共下水道事業	農業集落排水事業
計画区域面積 (ha)	2,971.5	31.8	218.8
処理区域面積 (ha)	2,697.9	31.8	218.8
計画人口 (人)	92,810	1,390	5,070
処理区域内人口 (人)	93,882	1,073	3,004
水洗化人口 (人)	85,072	1,039	2,920
処理区域戸数 (戸)	36,715	387	1,077
水洗化戸数 (戸)	33,185	374	1,046
水洗化率 (人口比%)	90.6	96.8	97.2

注) 特定環境保全公共  
下水道事業(広見東地区)  
(大森地区)を含む。

注) 久々利地区のみ。

注) 今地区、塩河地区、  
長洞地区の合計。

下水道管路施設の推移



管 渠	コンクリート管	約 112,400 m
	陶 管	約 83,000 m
	塩ビ管	約 411,500 m
	そ の 他	約 11,100 m
	合 計	約 618,000 m
マンホールポンプ		107 基